

(3) 授業の質的改善のプロセス

A校A教諭、B校B教諭の学級において、授業改善のツール「授業改善ステップ表」、「手立て一覧表」、「ステップアップシート」を用いた授業の質的改善に取り組みました。

どのようなプロセスを経て授業の質的改善が図られたのかを、月ごとに振り返りをしています。なお、「授業改善ステップ表」では、授業改善に取り組む時期の目安として、年度初めと各学期の終わりを想定していますが、本研究委員会発足時期や公開授業実施時期に合わせて、それぞれ7月・9月・10月（A校）、7月・9月・11月（B校）に取り組んでいます。ここでは、本年度の総括的な振り返りを載せています。月ごとの授業改善プロセスの詳細については、下記のリンク先を御参照ください。

授業改善プロセス
詳細はこちらから
(A3版)



クリック

A校（第2学年）の授業改善のプロセス

B校（第6学年）の授業改善のプロセス

ア A校（第2学年）の授業改善のプロセス

月	単元名	A 見通す		B 自ら考える		C 対話する		D 振り返る	
7月	がまぐんとかえるくんが したことやようすがわか る音読げきをしよう	単元前 ① ↓ 単元後 ②	g 学習計画を 児童と立て る	単元前 ① ↓ 単元後 ②	h' モデルを提 示する	単元前 ① ↓ 単元後 ①		単元前 ① ↓ 単元後 ①	
9月	友だちのことをもっとよく知 るために、話し方名人・聞き方 名人になって、たからものし ようかいをしよう	単元前 ② ↓ 単元後 ②		単元前 ① ↓ 単元後 ②	h' モデルを提 示する	単元前 ① ↓ 単元後 ①		単元前 ① ↓ 単元後 ②	j' 到達基準を 基に振り返 らせる
10月	どうぶつのひみつを見つけ て、「どうぶつすごいきぞクイ ズ」を作り、クイズ大会をし よう	単元前 ② ↓ 単元後 ③	h' モデルを提 示する	単元前 ① ↓ 単元後 ②	n ワークシー トを工夫す る	単元前 ② ↓ 単元後 ②		単元前 ① ↓ 単元後 ②	j' 到達基準を 基に振り返 らせる

(各単元で「手立て一覧表」から取り入れた手立てのうち、特に有効であったものを挙げています。)

一年間の授業改善に取り組んで・・・(A校A教諭)

A 見通す	年度当初は①だったステップが、7月の実践後は②へ、10月の実践後は③へとステップアップしました。新しい単元に入るときに、学習のゴールを提示し、そこに至るまでに必要な学びについて児童と共に考え、学習計画を設定するようにしました。学習計画を児童と共に立てることによって、児童が自分たちの学びとして、意欲をもって前のめりに学習に取り組むことを実感しました。
B 自ら考える	年度当初は①だったステップが、7月・9月・10月の実践後は②へとステップアップしました。ツールを用いないときは、元のステップに戻りがちでした。児童の実態に即したモデルを教師が作成し、単元はじめに提示する手立ては、有効だと感じました。
C 対話する	年度当初は①だったステップが、10月の実践前に②へとステップアップしました。自分たちの対話を客観視させるために、タブレット等のICT機器の利用が大変有効だと思いました。対話での気付きを基に、考えを修正したり再構築したりすることができる場を設定することも大切だと分かりました。
D 振り返る	年度当初は①だったステップが、9月・10月の実践後は②へとステップアップしました。学習の振り返りはこれまで発表させていましたが、学習計画表の中に、学習活動と対応した形式で記述させるようにしました。これにより、何をどのように学ぶことで、どのような力が身に付いたのか、児童自身が振り返ることができました。

イ B校（第6学年）の授業改善のプロセス

月	単元名	A 見通す		B 自ら考える		C 対話する		D 振り返る	
7月	う 本に 一番 心に残 っている について、 紹介しよ う	単元前 ① ↓ 単元後 ②	e 児童の興味 を踏まえて 言語活動を 設定する	単元前 ① ↓ 単元後 ②	l 児童に選択 肢を与える	単元前 ① ↓ 単元後 ①		単元前 ① ↓ 単元後 ①	
9月	を わた した ちの 町の よさ を伝える 新聞を作 ろう	単元前 ② ↓ 単元後 ②		単元前 ② ↓ 単元後 ②		単元前 ① ↓ 単元後 ②	p 対話の形 態を使い 分ける	単元前 ① ↓ 単元後 ②	s キーワード を用いて振 り返らせる
11月	う 意見 を聞き 合って 考え を深め、 意見文を 書こう	単元前 ② ↓ 単元後 ③	h' モデルを提 示する	単元前 ① ↓ 単元後 ②	n ウェビング で考えを広 げる	単元前 ② ↓ 単元後 ②		単元前 ① ↓ 単元後 ②	j' 到達基準を 基に振り返 らせる

(各単元で「手立て一覧表」から取り入れた手立てのうち、特に有効であったものを挙げています。)

一年間の授業改善に取り組んで・・・(B校B教諭)

A 見通す	年度当初は①だったステップが、7月の実践後は②へ、11月の実践後は③へとステップアップしました。学習課題を設定することで、学習のゴールや単元で習得すべき力が、教師だけでなく、児童にとっても明確になることが分かりました。どの単元でも適切な学習課題を設定するよう心掛けたいと思いました。
B 自ら考える	年度当初は①だったステップが、7月・9月・10月の実践後は②へとステップアップしました。言語活動やテーマの設定の際、児童が自己選択する機会を設けるようにしたところ、児童が自分たちの学びとして、意欲をもって前のめりに学習に取り組むことを実感しました。
C 対話する	年度当初は①だったステップが、9月の実践後は②へとステップアップしました。対話を行う際は、具体的な話合いの観点や目的を児童に明確に伝えることが大切だと分かりました。話合いの観点は、到達基準の文言と合致させることで、目的意識がより明確になると思いました。
D 振り返る	年度当初は①だったステップが、9月の実践後、10月の実践後は②へとステップアップしました。本研究を受けて、1単位時間や単元の終わりに、できるようになったことや分かったこと、その理由や根拠等の視点を与えて記述させるようにしたところ、少しずつ質の高い振り返りができるようになりました。学んだことの意義を実感することができれば、次の学びに生かすことができると分かりました。